

SRI アナリストへの道

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

グッドバンカー社は、企業を ESG（環境、社会、ガバナンス）の観点から評価する SRI 専門の調査会社であり、現在 13 名のアナリストがいます。そのうち 5 名が証券アナリストの資格を持っています。

年齢は 30 代から 80 代までと幅広く、男女比は女性 7 名に対して男性 6 名でほぼ同数です。金融のバックグラウンドを持っているのは 7 名であり、6 名はそれぞれ公務員、事業会社などの出身です。ESG、特にガバナンスを評価するということは、組織風土の分析を抜きにしては語れず、その意味からも、新卒者を SRI アナリストとして採用することは、当社の場合にはしていません。

SRI アナリストの仕事は、日常的には、企業の数値化されている ESG 情報を自社開発のデータシステムにインプットするなどの地道な作業です。企業訪問のアポイントをとったり、実際に訪問にこぎつけて、面談の中から様々な情報を収集・分析、評価するので、高いコミュニケーション能力も求められます。

また、企業の持っているいろいろな技術や製品・サービスの優位性、市場性、先進性、成長性を見極め、それが ESG ファクターのどこに、どのように、いつ、顕在化するかを見つけ出そうとせねばならず、アナリストには専門性の高い知見も要求されます。それゆえ、SRI アナリストにとって年齢が高いことはむしろ有利であり、80 代のアナリストが当社で活躍できる所以です。

このアナリストはある大企業のエンジニア出身で、工場長、環境関連子会社の社長を経て、当社のアナリストとして 10 年以上活躍しています。事業会社出身の理科系の発想、あるいは公務員のように利益の極大化をめざさない組織のモチベーションとは何かの議論など、当社の SRI アナリストは日々喧々諤々の議論をしています。アナリストのバックグラウンドの多様性は、視点の豊かさにつながり、ESG 情報の収集・分析、評価という、当社の業務の質そのものの向上につながるといえます。

こうしてみると、SRI アナリストとしての必要条件は、研究者やリサーチャー、財務アナリストなどとあまり変わらないのかもしれませんが。しかし、十分条件として、SRI アナリストの場合は、何よりも「今そこにあるもの」をより良いものにしていくという使命感と情熱が求められます。感性の強さが、仕事の質に強く関わってくるのです。SRI アナリストの道は、中国の作家・魯迅の言う「希望とは、もともとあるものとも言えぬし、ないものとも言えぬ。それは地上の道のようなものである。地上にはもともと道はない。歩く人が多くなれば、それが道となるのだ」というものなのではないでしょうか。自分なりの ESG で会社と社会を見つめ、投資行動に移す人々が増えることが、「SRI アナリストへの道」をつくるのです。